

2021 年度愛南町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

愛南町は愛媛県の南端に位置し、気候は四季を通じて温暖で梅雨期には雨が多く南海型気候の特色をもっている。耕地のうち水田は平野部から山腹にかけて位置し、山間部には樹園地が開けている。

水田における作物の作付けは、主食用米栽培が最も多く、水稲の作付体系では早期栽培が半数以上を占めており、早期米の比率が県下でも高い地域である。転作の状況については、地域振興品種を絞った取組みを実施したことによりブロッコリー等を中心に作付の拡大が進んでいる状況にある。

また、農家の高齢化が進んでおり農業経営体数が年々減少している傾向にある。それに伴い、荒廃農地や不作付地拡大の恐れがあるため将来を見据えた農地の維持管理、農業後継者や担い手の確保が課題となっている。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

JA えひめ南と連携し地域振興作物としている4品目（ブロッコリー、ナス、スイートコーン、サトイモ）について重点的に支援を行う。支援内容としては愛南町が行う野菜産地化推進補助事業の活用を促し作付拡大を図る。また、作付拡大を図ることにより愛南町における栽培方法の確立を図り、生産性・品質向上につなげ農家所得の向上を目指す。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

人・農地プランの実質化に伴い地域における話し合いを加速化させ、中心経営体への農地集積・集約化をすすめていく。

地域の担い手・労働力の状況等を考慮し、最も有効であるとされる水田の活用方法の検討を進める。また、水田の利用状況によっては畑地化支援の助成を活用し畑地化を図る。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

コシヒカリを中心とした早期米やヒノヒカリ、にこまるの普通期米に対する病害虫防除体制を確立し、省力、低コスト化の推進に努めるとともに、肥培管理を徹底して良質米産地を確立する。また、南宇和ライスセンターの設備について更新を図ったことにより、近年増加傾向にあるカメムシ被害等の不良米を除去し高品質な主食用米を供給する体制が整備されたため早期コシヒカリに消費宣伝、販売促進を行い新たな顧客の開拓を行う。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

町内の養鶏農家の飼料としての取組みとJA・全農を通じた広域流通利用での取組みを行っている。主食用米の需要量と価格低迷が続いていることもあり、主食用米と同一機械等で取り組める飼料用米への転換と多収品種の利用をするほか、複数年契約での取組みを推進し、主食用米からの転換を図る。

イ WCS 用稲

直播栽培等の低コスト生産に取組む一方、地力低下による生産性の低下を防ぐため、収入増が見込める作物を利用したブロックローテーションの導入や畜産農家や地域と連携した取組の推進を図る。

ウ 米粉用米・新市場開拓用米・加工用米

実需者とのマッチングに取組み、新規に作付を行う農家の支援を行い推進する。

(4) 高収益作物

ア 野菜

管内では、「ブロッコリー」、「ナス」、「スイートコーン」、「サトイモ」を地域振興作物の重点品目とし、担い手を中心とした作付を推進する。「ブロッコリー」は順調に作付面積の拡大が進んでおり、栽培方法の確立により品質の向上を図り更なる拡大を目指し、春作、冬作の販売方法と販売先を拡充する。「ナス」、「スイートコーン」及び「サトイモ」は、講習会等により栽培方法の確立、栽培技術の向上を図るとともに有利販売方法を検討し推進する。また、これら4品目については、愛南町野菜産地化推進事業に基づき種苗の導入に係る経費について助成し、作付面積の拡大を図る。

その他の野菜については、地元の産直市やスーパーに需要がある少量多品目の野菜として、地産地消による農家の所得向上や水田の活用が見込め、限界集落や高齢者でも取り組めるため関係機関と協力し支援を行う。

イ 花き・花木

花きについては天候に左右されにくく、年間を通じて栽培が可能となる施設での作付を推進し、所得の安定を図る。

花木については露地栽培を中心に作付を進める。

ウ 果樹

温暖な気候を活かした柑橘類の栽培が多くみられるが、山間部や傾斜地での栽培がほとんどであり、水田での栽培では、栗・キウイフルーツ・ビワ・柿・ブドウが作付けされている。ほ場条件が悪い山間部の水田について、畑地化の推進を図る。

エ その他の高収益作物

工芸作物については、町内である程度の需要が見込まれるため作付け生産に取組む。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物等	前年度作付面積等 (ha)	当年度の作付予定面積等 (ha)	令和5年度の作付目標面積等 (ha)
主食用米	381.6	378.7	365.0
備蓄米	0.0	0.0	0.0
飼料用米	12.8	14.1	20.0
米粉用米	0.0	0.0	0.0
新市場開拓用米	0.0	0.0	0.0
WCS用稲	2.8	2.8	2.8
加工用米	0.0	0.0	0.0
麦	0.0	0.0	0.0
大豆	0.0	0.0	0.0
飼料作物	0.0	0.0	0.0
・子実用とうもろこし	0.0	0.0	0.0
そば	0.0	0.0	0.0
なたね	0.0	0.0	0.0
高収益作物	58.9	67.0	72.0
・野菜	50.6	57.5	60.0
・花き・花木	0.7	1.0	1.5
・果樹	5.0	5.3	7.0
・その他の高収益作物	2.6	3.2	3.5
畑地化	0.0	0.0	1.0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	目標値
1	ブロッコリー ナス スイートコーン サトイモ	地域重点作物助成 (基幹：担い手)	作付面積	(2020年度) 12.03	(2023年度) 14.00
2	ブロッコリー	地域重点作物助成 (二毛作：担い手)	作付面積	(2020年度) 12.39	(2023年度) 14.00
3	(1) 野菜 ブロッコリー、なす、たまねぎ(セットたまねぎ含む)、オクラ、そらまめ、八寸豆、スイートコーン、きゅうり、かぼちゃ、すいか、トマト、ピーマン、いちご、キャベツ、ほうれんそう、ねぎ、白ねぎ、はくさい、赤しそ、だいこん、さといも、やまのいも、かんしょ、いんげん、えだまめ、え	野菜・工芸作物等 作付助成 (基幹：担い手)	作付面積	(2020年度) 21.75	(2023年度) 23.28

<p> んどう、レタス、チンゲンサイ、にんにく、しょうが、ばれいしょ、軽量野菜（小松菜、春菊、水菜）、その他野菜苗（たまねぎ苗、いちご苗） （２）工芸作物等 葉たばこ、小豆、雑穀（ヒエ・アワ）、薬草類（ミシマサイコ、ヨモギ）、その他工芸作物（こんにゃくいも、さとうきび、なたね、ごま） </p>				
---	--	--	--	--

- ※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
- ※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

- ※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。